

## 令和2年度第1回沿岸広域振興圏大船渡地区地域連携懇談会 開催概要

1 日時 令和2年12月2日(水) 13時30分～15時30分

2 場所 大船渡地区合同庁舎4階 大会議室

### 3 参集者

- (1) 武蔵野美和委員、佐々木陽代委員、佐藤悦男委員、新沼学委員
- (2) 沿岸広域振興局長、副局長兼経営企画部長、副局長(大船渡市駐在)、  
企画推進振興課長、大船渡保健福祉環境センター所長、  
大船渡農林振興センター所長、大船渡農業改良普及センター所長、  
大船渡水産振興センター所長、大船渡土木センター所長ほか

### 4 概要

#### (1) 令和元年度「沿岸広域振興圏 施策評価」について

##### 【武蔵野美和委員】

① 自然災害に強い町づくりで進捗率が遅れているのは仕方がないが、設計ミスの現場を見たことがある。復興推進と言うのであれば、もっと事業の実現には慎重であるべきであり、施策結果評価調書には反省点が載っても良いのではないか。

⇒ 個々の工事現場箇所によっては、地盤等当初想定したものと実際が相違することがあり、必要な強度を確保できないために追加工事が必要になる場合がある。

また、沿岸地域では平成28年台風10号、令和元年台風19号の自然現象により工事への影響があった。設計ミスに関しては、人為的なことなのでミスが無いように取り組んでいく。【企画推進課長】

② 防災の復興のまちづくりが進まないうちは担い手も育たない。復興が進み防災に強い街をアピールしたいのであれば、もっと生活の実感を見せる機会があっても良いのではないか。住民の生活という部分が評価調書に載っていないのは否めない。

⇒ 施策結果評価調書は県の施策を機械的に評価しており、今後、当該調書を完成させていくに当たって、住民目線に立った視点を反映させることができるように工夫していく。

##### 【企画推進課長】

##### 【佐々木陽代委員】

① 令和元年はラグビーワールドカップもあり釜石市の方は凄く賑わい、大船渡にも関連した方、仕事関係の方に来て頂いたが、台風が重なったこともあって一回で終わってしまった印象がある。その後、外国の方が来るような期待感もあったが、大船渡には訪れている様子は感じられず、次に繋がらないのが残念であった。

② 釜石市と花巻市は釜石道が繋がった事で凄く便利になったが、逆に日帰りの町になったと感じる。大船渡は、道路が不便なので県内の方にも泊まりに来て頂き、コロナの状況下であっても宿泊客は多かったことから、道路が便利になることは必ずしも良い訳ではないのだと思った。今後オリンピック・パラリンピックが行われ観光客が来た際は、日帰りされるのはもったいないので、震災復興の取組を見て頂けるよう取り組んでいきたい。

③ コロナ禍では外国の方が来ることが見込めなくなったので、国内誘客を考えた時に、岩手の魅力は何なのか、きちんと考えなければならない時期にきている。地域性などを踏まえながらPRが出来たら、ラグビーだけでなく、もっと岩手に沿岸に、そして防災教育に人を呼び込めるのではないかと思う。

④ 施策評価結果調書「多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします」の達成率が100%になっているが、少し物足り無さを感じる。

##### 【佐藤悦男委員】

令和元年度の状況下で、新規就業者確保では2名の新規就業者を迎え、来春には高卒者を

1名採用する予定としている。状況が良ければ採用を増やしたいという希望はあるが、農業というのは所得が安定しないと後継者が育たないので、新規就農者の確保にあつては、過去から将来まで大きな課題があるものと思っている。

#### 【新沼学委員】

① コロナの影響で住民説明会が開催出来ず河川の指定が遅れたことは仕方がないが、指定した後に特に河川に近い住民への周知について、何処にどう避難すれば良いか、実際どう行動すれば良いか解りにくいところがある。自分の身は自分で守ることは大切だと思うので、周知徹底すれば良いのではないかと。

⇒ 洪水の浸水指定区域については、令和元年度中に指定をする目標であったが、令和2年度に地元の市と調整して説明会を開催し、指定に至っている。

県は指定して終わりではなく、住民の皆さんの避難に役立つことが重要であると考えており、地区ごとにワークショップを開催し避難方法を協議し、ハザードマップの改訂に繋げていく、そういった取組を支援できるよう努めていく。【大船渡土木センター所長】

② 廃棄物の評価では、コロナの影響でゴミの排出量削減を達成することは難しいと感じている。大船渡市では、ゴミの再利用という形で、焼却するだけでなくリサイクルを推進しているの、気仙管内でそのように進めていけたらゴミの排出量は減っていくのでは無いと思う。

③ サケの稚魚を放流する事業は、恐らくこれから先もこのまま放流数で評価をしていくと未達成の状況が続くと思う。放流数を増やすだけでなく、回帰してくるサケの資源量が回復しなければ放流数が見込めない、別のことを考えても良いのではないかと。

それから、サケではない取り組みをしている漁協もあるので、そういうところを支援するような施策を進めて頂ければ良い。

#### (2) 令和2年度「沿岸広域振興圏 地域振興プラン」の実施状況について

##### 【武蔵野美和委員】

全体的にコロナの影響があり、何をどのように取り組んだのか、事業を進めることが難しい状況ではあるが、生活に根差した評価をどこかに載せていく必要があると思う。シトラスリボンプロジェクトというコロナによる差別をなくするというプロジェクトに取り組んでいるので、誹謗中傷の無い、差別のない、幸福感をもたらす県のプランである、ということをごどこかに盛り込んでも良いのではないかと。

##### 【佐々木陽代委員】

① 観光の分野で、10月の陸前高田市の花火大会は大きなイベントであったが、どこの宿泊施設も予約が取れず、花火大会に来るお客様がどこに泊まるのかを陸前高田市だけでなく、大船渡市や気仙沼市を含め地域全体で取り組むべきだと感じた。地域全体で観光客を呼び込みたいので、花火大会だけで終わったのは残念であった。

仙台に行き易くなったことで、仙台圏から来るお客様も増えており、県内だけではなく、仙台を視野に入れた情報発信の強化をお願いしたい。

② 大船渡商工会議所では「さんりく応援便」という地域の特産品通販をやっている。個人商店では出来ない販売方法もあると思うので地域ぐるみで紹介ができれば、大変な状況の飲食店などを応援できるのではないかと。

③ コロナ禍だからこそ、オンラインによりどこに住んでいても関係無く仕事ができるので、Uターン希望者が帰って来やすい環境を作ることが地元の役割だと思う。移住希望者を受け入れる地元の土壌づくりに力を入れていけば、漁業など後継者不足も解消できると思う。都会から人が離れている状況で、地元に戻ってくるきっかけ作りも大切である。町にもっと建物が建ってきた方が地元も元気になるので、そこに力を入れて欲しい。

④ 東日本大震災津波伝承館をもっと活用して良いと思う。インパクトが大きいので、一本

松を見て伝承館見て帰るではなくて、そこからレンタサイクルなどを整備していけば地域をより知ってもらえる機会になると思う。

【佐藤悦男委員】

① 海岸保全施設の整備が陸前高田市では完了とあるが、脇ノ沢地区は、完了していないと感じている。これは発注が済んだという事で完了となっているのか。

⇒ 今回の施策は、県事業の整備という事になっており、市の事業ではまだ完了していない箇所がある。地域住民の皆様には「ここまでは県、ここからは市」と言うところは全く関係なく、誤解のないように資料を作成すべきであった。【大船渡土木センター所長】

② 東日本大震災は、自然物は壊れないで人工物が壊れたというイメージがあり、色々な懇談会で話を聞くと、「岩手県の算定によれば」というような言い方をされることがある。そうではなく震災とか津波が来た時にはいち早く逃げる体制をどう構築するか、まず逃げるのが大事だ、と言う発信が必要なのではないかと思う。

⇒ 避難の関係では、今年の夏、国で、日本海溝・千島海溝という北海道、東北の方で大きい地震が発生した場合の津波の予測結果を公表した。岩手県は、津波の影響が大きいとされている。この予測は、津波が襲来した場合、防潮堤等が壊れると言う前提であるので、過信せずに逃げることを原則として頂きたい。

参考までに防潮堤等が壊れない場合の予測結果も併せて公表されているので、県、市町村が説明する際は、しっかりとお伝えしたい。【大船渡土木センター所長】

③ ホタテの貝毒の関係については、出荷規制が大きくて、死滅や一割も出荷できなかった年もある。出荷する場合は、これを解決しないと漁業者の安定生産につながらないので、お金をかければ良いと言うものではないが、態勢づくりに力を入れて頂きたい。

⇒ ホタテ等の貝毒は特に震災後、津波によって海底がかき混ぜられたことにより、土の中に埋まっていたシスト・植物の種が浮き上り一斉に増えた状態が長期にわたって続いている状況。県では貝毒原因プランクトン発生情報発信や、貝毒の発生予測、早期の毒量低減技術研究を大学と連携し進めている。【大船渡水産振興センター所長】

④ 農業関係では、コロナによる影響が大きく、天候不順もあってダブルパンチのような形であった。主食米生産は、在庫米や流通価格下落が大きく影響し、単価が安い時は収支バランスが崩れる。安定した生産、所得確保が大事だと思うので、永続させるためには価格補償的な部分が必要になってくる。1ヘクタール当たりの支援措置や農業の安定補償をしていく制度があれば良いと思う。

⇒ 米については、収穫量・生産量が増えると、価格が下落するのでバランスが難しい。このような場合、米だけでは経営が成り立たないので、それ以外の品目を組み合わせていくことになり、どのような品目をどのようなバランスで経営していくか、どのような機械を導入していくか、どのくらいの雇用が必要か、それらを中長期的な計画を作った中で経営していく。県もこうした計画づくりを支援しており、専門の診断士に相談に乗って頂きながら進めていきたい。【大船渡農業改良普及センター所長】

⑤ 農業に対するイメージは、まだ「きつい」「汚い」と言うイメージが残っている。それと同時に農業者に対し不利なPRが多いように感じている。実際とのギャップが相当あるので、PRの仕方、報道機関との共生という部分は重要である。機会があれば農業のイメージをもっと明るくして頂きたい。後継者が増える材料になると思う。

⇒ 気仙地域ではどれだけ農業を頑張っているかと言うところがなかなか見えてこなかったもので、報道機関にも協力してもらいながら、一般の人にも広く目にしてもらえるように努力する。【大船渡農業改良普及センター】

⑥ 国、県の様々な制度があるが、農家にとっては使いにくいものが多い。また、制約が大きく、もう少し特例的な部分を作って頂けるよう、要件を緩和して頂くように国の方にも働きかけて頂きたい。

⑦ 水田では泥田地を乾田地に変えている所は多くあるが、土地改良をすれば4～5年くら

い面倒をみる必要がある。面積が大きくなると自力で耕作するのは難しいので、改良する場合も制度を創設してもらえれば、新規就農者が育っていけないのではないかと思う。そういうことを踏まえて県民計画の中に入れて頂ければと思う。

#### 【新沼学委員】

資料No.2-1、沿岸地域における道路網の整備は、材料輸送、農水産物を地域外へ発送する等、何をするにしても重要なこと。沿岸広域振興局管内で大船渡地区、釜石地区、宮古地区を比較すると、釜石・宮古地区では内陸と結ぶ道路の整備が進んでいる。大船渡は釜石道が出来たおかげで幾らか近くなったがまだ遠い。国道107号の白石峠や荷沢峠など冬季間の通行が難しいところがあり、このようなところの整備を強固に進めて頂くことが必要である。

資料No.2-2の中に観光の部分で「レンタカーを利用した仙台圏からの誘致」と言う部分があったが、先方は仙台に来て欲しいと言うことだと思うので、こちらも負けないうPRしていけば良いと思う。この地域は食材、特に魚介類が非常に良いものがあるので、もっとPRして飲食店とタイアップしながら観光客の誘致を進めて行ければ良いと思う。

### (3) 令和3年度「沿岸広域振興局 施策展開の方向性」について

#### 【武蔵野美和委員】

- ① SDGsのマークを入れている割にはジェンダーの項目が少ないという印象。命の事を考えたり、福祉のことを考えたり、人に寄り添い人のことを思うことは全部ジェンダーに繋がると思う。これからは担う子供達が自ら学ぼうとする意欲を大人が支え、世代を超えて垣根を取り払うのもジェンダーだと思うので、「縦の項目が」「横の項目が」と言う以前に、「この項目はここと繋がっている」と言う形でもっとジェンダーのマークを入れて欲しい。
- ② 防災関係では、陸前高田市の東日本大震災津波伝承館が凄く賑わっていると新聞報道等で目にするが、開館以来日が浅いと言う事もあり図録等が整備されていない。とても良い施設でガイドも勉強されていると思うが、資料が膨大で施設を見ることしかできない。写真撮影もほぼ不可であり、勉強したいと思う人たちが持ち帰るものが整備されていない。今後、最低限の図録等は必要になってくるので、IT技術・スマホを活用すれば、この資料が出てくる、耳の不自由な方用のスピーカー音が入っている等図録としてそういうものがあっても良いと思う。
- ③ これからは担う子供たちに対し授業として取り入れると良い防災教育は多いが、与えるのではなく自分たちの命は自分たちで守らなければならないことを考えることが今後必要になってくる。防災授業でやっているHUG（ハグ）と言うのは時間に追われながら避難所をどう運営するかと言うゲームである。防災ゲームや防災を捉えるゲームと言うのは多種多様あるが、こうでなければならないと言うゲームが多く実態にそぐわない部分がある。大人の世界では子供が追い出されるのが現実であり、子供たちだけで運営することは有り得ないが、実勢を重んじる授業にしていきたいと思っている。防災教育にしても人材育成にしても子供たちが自ら考え学びの場を作る、そういう意見を集約するプログラムや施策があると良いと思う。

#### 【佐々木陽代委員】

- ① 三陸ジオパークと言うと、自然に関わるところで公園が整備され凄く広い敷地を家族で楽しめる空間が町中に出来たことは良いことだと思っている。コロナ禍で家に閉じこもりがちなので外に出て家族で健康を作っていこうと言うような流れを、ジオパーク・潮風トレイルなど、スポーツと結び付けるようなPRが出来れば良いと思う。
- ② 高齢の方は外との関りを断ってしまいがち、コロナが怖いこともあり、基礎疾患があつてどんどん体も弱っていく。心も閉じこもりがちになってしまうので、地域の小さなコミュニティで良いので、例えばタブレットやスマートフォンを使ってみよう、動画で孫と会話をしてみよう、などサポートが出来たら高齢者の方が取り残されることなく新しい楽し

みを見つけて学んでいけるような取組になるのではないかと思います。オンライン講習など企業でやっていることを地域住民にも使って頂けたら良いのではないかと思います。

高齢者が取り残されない取組を、この沿岸から少しずつ発信していけたら良いと思う。沿岸の高齢者さんは凄く元気なので、今後そのパワーを学ぶ意欲に繋げていくような仕組み作り、地元で活躍している方たちの講演会や触れ合う時間をもっと作っていけたら、子供たちも自ら学んで考えて行けるような生活になっていくのではないかと思います。

#### 【佐藤悦男委員】

産直と言うのは非常に大事だと思う。季節的なものではあるが、例えばニンニク、健康食品として利用されることが多く、近くのコンビニエンスストアと連携しながら出させて頂いている。そうすると10キロ20キロと言う単位でその日の内に売り切れる状況である。自分たちで産直を作るとなると投資が必要となるので、多少手数料は支払うにしても市内のコンビニエンスストアなどを利用しながら産直販売するという事も大事である。そうすることで生産者が地域販売できる仕組みが出来、外部からのお客様だけでなく、地域の人たちも含めた利用の仕方ができるのではないかと感じた。

#### 【新沼学委員】

- ① 資料ナンバー3-2の洪水対策、盛川で実施しているところであるが、前回の掘削の際は、もっと掘削できるのではないと感じた。洪水対策などを着実に進めて頂いて地域住民が安心して暮らせる施策を進めて頂けたらと思う。
- ② 地域を牽引する産業が持続的成長する地域と言う事で、こちらは新規の項目が多くあるので、これからどのようにそれぞれ具体化していくか、大変なことだと思うが引き続き取り組んで頂けると良いと思う。
- ③ 種苗法について報道を拝見したが、一般の農家の方がこれまで栽培して取った種が栽培できなくなるという報道であったので、どのように対策をしたら良いのか農家の方々や農協と連携して十分に情報提供をして頂ければ良いと思う。

#### (4) その他

##### 【武藏野美和委員】

「自主防災組織の達成率が低い」と言うのがあったが、自主防災組織を作るよりも地区防災計画を住民のボトムアップにより良いものを作るという風潮になっていることも踏まえ、一人ひとりの知恵を生かした地域づくりをしていただきたい。

#### (5) まとめ

##### 【局長】

計画の評価は、県が施策として何をしたかという行動評価となっている。もとより県民の皆さんの生活がどう向上したのか、意識がどう変わったかが重要であり、県では意識調査などをあわせて実施して、政策や個々の施策に反映させている。

例えば、県民意識調査では、安全がどれだけ進捗したかを調査しているが、防災関係の工事は進んでいるものの安全面の評価が下がることもある。防災では施設を着実に整備していくことが必要だが、ハードだけでなく、地域の皆さんで色々話し合っ、みんなで作り上げていくことも支援していかないと前に進まない。

また、仙台からの誘客について様々なご意見があったが、コロナ禍の中で、試行的に県外からの観光ルートの造成に取り組んでおり、仙台から3コースを造成し、年度内には催行出来ると思うので、それを軌道に乗せていきたい。

農業の分野に若者が入りたいと思うには、収入や生活が安定していることや、農業をしたいと思わせるようなイメージが必須の条件だと思っている。

交通網については、宮古と盛岡間や、花巻と釜石間といった、復興支援道路の軸のところは出来たが、軸から派生する道路網の整備が無いと地域振興に繋がらない。気仙地域から内陸に行く道路には、いくつか峠があるが、今後、出来るところから着実に整備することとしているので、時間は頂くがよろしくをお願いしたい。